

**総 説****MSMのエイズ対策における、コミュニティヘルスワーカーの役割と課題の検討**

—ヨーロッパにおける大規模調査 ECHOES の紹介から—

**What Is the Role and Challenges of Community Health Workers in Sexual Health Support for MSM ?**

—An Introduction of ECHOES Study, a Large-Scale Survey in Europe—

岩 橋 恒 太

Kota IWAHASHI

特定非営利活動法人 akta

NPO akta

日本エイズ学会誌 23 : 107-112, 2021

**はじめに**

2020年3月以降COVID-19の流行を受け、日本でもMSMを対象としたエイズ対策に携わるCBO（Community Based Organization）は従来のコミュニティワークが大きく制限されてしまった。たとえば、予防啓発活動のためのイベントや、ゲイバーなどに出向くアウトリーチ活動は、2021年6月の現在でも規模を大幅に縮小せざるを得ない状況が続いている。また、COVID-19の緊急対応のため、長らく保健所でのHIV検査が中止・縮小されたり、NGOと連携したエイズ対策の予算の見直しを始めた自治体も出始めている。COVID-19の流行は、日本のエイズCBOの活動にも大きな影響を与えており、持続可能な活動の基盤を不安定にしている。

しかし、COVID-19以前にも日本のエイズCBOの活動の課題はあった。HIV/AIDSに関する社会的な関心の低さや、CBOで活動する人たちの高齢化と若い世代への引き継ぎの課題がある。また特に近年、PrEPやU=Uといった新たな技術や情報についてアップデートすることがCBO自体にも重要となり、予防啓発の活動に必要とされる知識が以前に比べて複雑化していることも挑戦としてあげられるだろう。また活動の対象についても、「日本国籍のゲイ・バイセクシュアル男性」だけでなく、多様なあり方を前提とすることが必要となっている。地域差はもちろん、トランスジェンダーなど性の多様性や、国籍、また依存などメンタルヘルス領域を前提とした活動が必要となっている。

ただし問題は、予防技術や活動対象の複雑化にあるのではなく、CBOのメンバーがそうした変化に対応するための教育やトレーニングを受ける機会や制度が限られてしまっている点である。

国際的にも、ケアカスケードの目標達成へのエイズCBOの貢献についての評価研究のほか、CBOの持続可能な取り組みのための研究や議論が現在、行われ関心を集めている<sup>1)</sup>。CBOで働く人たちを「Community Health Worker（以下、CHW）」として、その活動の評価が行われている<sup>2~4)</sup>。CHWというと途上国の、絶対的に医療が足りない地域での支援者のイメージを持つ人も多いだろう。その一方で、先進国でエイズ対策のために働くCHWは実際の活動や果たしている役割は十分に可視化されておらず、不安定な状況の中で活動が行われているところも少なくない。そうした状況に対応するためCHWを対象とした研究が行われ、研究成果に基づく人材トレーニングや、エイズ施策にCHWを明確に位置づける取り組みが進められている。

本稿では、ヨーロッパで2017年から行われているMSMの性の健康支援に従事するCHWに関する大規模調査「ECHOES（European Community Healthworker Online Survey）」を紹介し、日本のCHWについての今後の取り組みや研究について検討したい。

**方 法**

本稿はヨーロッパで行われた、ECHOES調査を紹介する。本稿でECHOESを紹介する理由は下記のとおりである。①先進国のCHWを対象とした調査であり、ECHOESのような大規模な調査は他に先行する研究が見当たらない、②日本のCHWが抱える課題と共通する課題をECHOES

著者連絡先：岩橋恒太（〒160-0022 東京都新宿区新宿2-15-13 第二中江ビル302号室 特定非営利活動法人 akta）

2021年7月23日受付

の調査対象も抱えている、③ECHOES に中心的に取り組んでいる研究者と筆者らは協働プロジェクトを行った経験があり、今後、日本で同様の研究や応用した取り組みについて検討していること。

ECHOES は ESTICOM (European Suverys and Training to Improve MSM Community Health) 国際研究プロジェクトにより実施されており、ESTICOM は欧州委員会消費者・健康・農業および食料執行局 (Chafea) による資金を得ている。

研究デザインはオンラインによる横断調査であり、質問紙の質問項目は 10 のテーマと 175 問で構成される。なお、テーマと質問は図 1 の、本調査に際して作成された CHW の行動理論コンセプトモデルに基づく。

適格基準は、① 12 カ月以上 (医療機関ではなく) コミュニティの環境で活動した経験がある、② EU 域内およびその周辺地域の 36 カ国に居住す、③ 18 歳以上、④ 研究参加同意の 4 点。調査実施は 2017 年 10 月～2018 年 1 月までで、オンラインで広報を行い質問紙を掲載した調査サイトで回答する方式をとり、回答時の言語は 16 言語から選択できる。

適格基準等に従い、分析対象は 1,035 件だった。ECHOES の結果は詳細な調査報告書の他、プロトコル論文や研究結果をまとめた論文の発表が始まっている<sup>5-8)</sup>。本稿はこれらの報告書、論文に基づき ECHOES 調査の紹介を行う。

## 結 果

### 1. ECHOES 調査の背景、目的、質問紙の構成

調査目的は、① ヨーロッパにおける CHW はどのような人たちで、どこにいて、どのように・なぜその活動に従事

しているのかを明らかにすること、② 現在抱える CHW の活動の障壁や課題を特定すること、③ CHW のもつスキルや知識のギャップ、どのようなトレーニングが必要となるのかを明らかにすること、④ 左記の結果を踏まえて CHW のためのトレーニングプログラム開発に貢献すること、の 4 点をあげている。また CHW とは一般的には、コミュニティとの近接性をもつことが重要な特性であり、健康支援活動を行う者のことを指す。ECHOES 調査ではさらに「ゲイ、バイセクシュアル男性、その他の MSM を対象とし、HIV/エイズ、ウイルス性肝炎、その他の性感染症に係る性の健康支援活動にコミュニティに根ざして従事する者」と操作的定義を行った。なお、CHW の活動対象は MSM にのみ限定されるものではないが、本調査では研究目的に従って限定している。

本調査が企画された背景には、ヨーロッパにおける CHW が活動継続をするのに不安定な状況に置かれてきたことがある。これまで CHW は、MSM の性の健康支援やエイズ対策において重要な役割を担ってきた。しかし、不安定な活動資金源、CHW へのトレーニングや活動への公的な支援の不足、活動の目的や役割が断片化・拡散してしまっていること、資金や役職などリソースが限られるため、他のアクターや組織などと希少なリソースを取り合わざるを得ないことなどが理由に、長年にわたって CHW は活動を継続するために負担を強いられてきている。またそのことは、CHW のもつ専門性 (仕事、実践、役割、知識、スキル) やニーズが正確に理解されていないことに起因しており、結果として CHW の役割や国の施策のなかでの位置づけが不明確であり、CHW を不安定な労働力とさせてしまっているという。

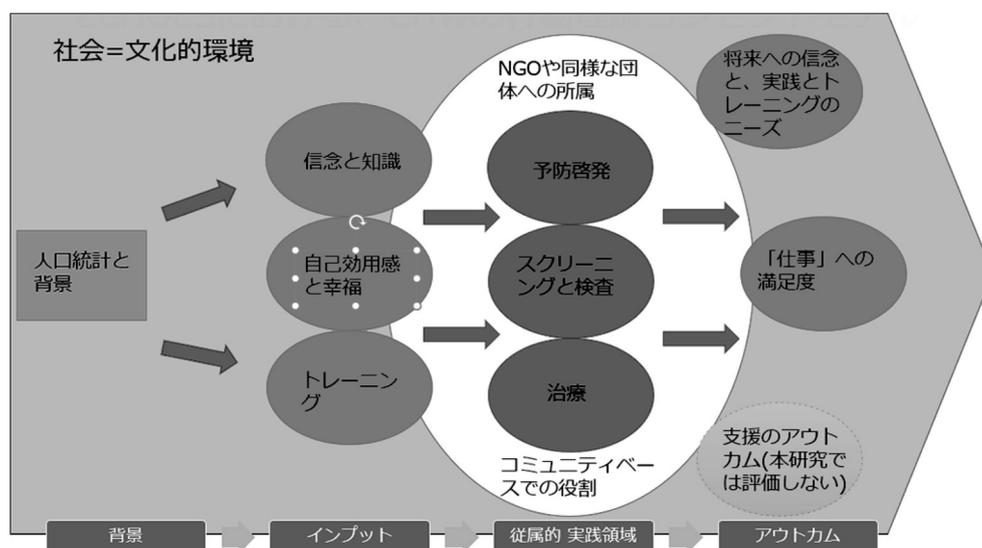


図 1 ECHOES における、CHW の行動理論コンセプトモデル

本調査の質問紙の項目は図1で先述したコンセプトモデルに基づいて企画され、10のテーマと175問により構成されている。テーマは、①回答者の基礎情報、②雇用状況と社会的ステータス、③CHWとしての役割、④提供するサービスのクライアント、⑤CHWとして活動の障壁、⑥CHWとしてのリクルートメント、⑦トレーニングとスキル、⑧CHWであることについての考えと感情、⑨HIVや性感染症についての知識、⑩最終問題、コミュニティとの関わり。なお、⑩最終問題とは、CHWである回答者自身の健康状況、感情、メンタルヘルスについても聞く内容となっている。

## 2. エイズ対策の連続体のなかのCHWの役割と貢献

CHWの従事する活動はWHOが示す維持カスケード(図2)に従って、検討が行われる<sup>9)</sup>。結果は図3のとおりである。ヨーロッパのCHWの従事する活動は、一次予防

が最も多く88.6%を占めていた。また治療・支援は半数以上が受療支援に関わる介入を行っており、治療に関わるメンタルヘルス支援、アドヒアランス維持支援、治療への付添いが多くを占めていた。

また、カスケードのどの部分においても少なくとも半数のCHWが関与しており、回答者の4分の1はすべてのステップに、5分の3が3つ以上のステップに携わっていると回答していた。CHWが複数のサービスに携わり、領域横断的な活動に従事していることが明らかになった。

さらにECHOES調査の回答者の居住する国々をILGA EuropeのもつRainbow Europe Indexに従って<sup>10)</sup>、ヨーロッパにおけるLGBTIへの低不平等国(19カ国、 $n=786$ )と高不平等国(17カ国、 $n=249$ )の2群に分類し、それぞれの群の特徴について解析を行っている。

有意差が見られた特徴は下記のとおりである。高不平等

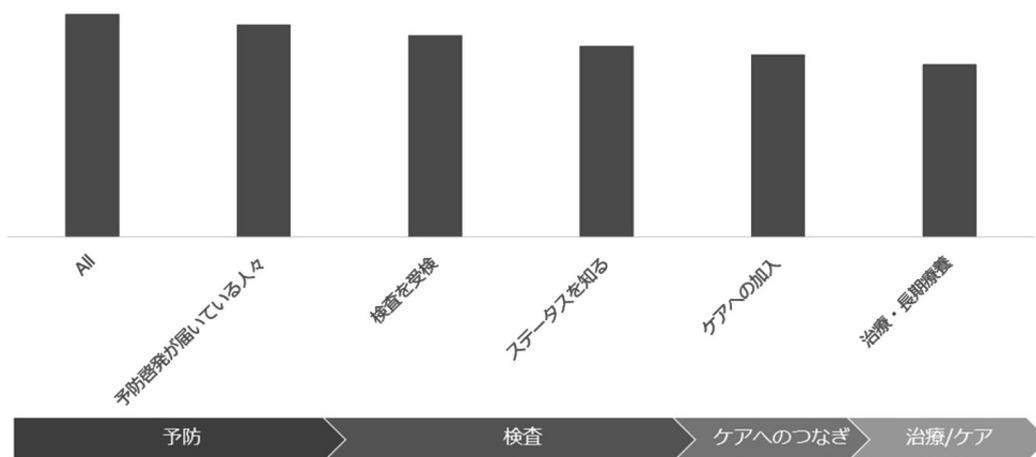


図2 WHOの示すSTIのサービスの連続体と維持(retention)カスケードのモデル

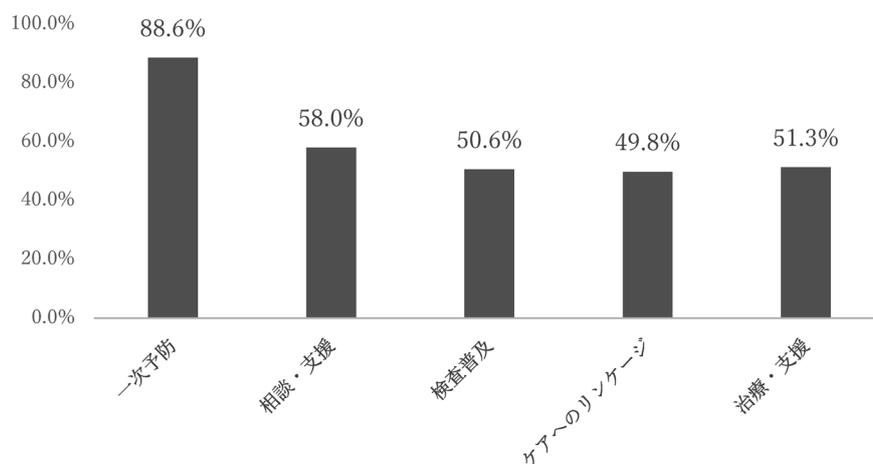


図3 MSMを対象としたHIV、ウイルス性肝炎、STIについてのCHWの活動 ( $n=1,035$ ) ※多重回答

国は低不平等国に比べて、CHWの年齢がより若く、よりCHWに女性が含まれていて、生活が快適だったり収入が十分と回答している割合が低く、CHW自身の健康状態が「よい・とてもよい」と回答している割合が低く、無償でCHWの活動に従事している割合が高かった。一方、低不平等国はCHW自身が「ゲイ/同性愛者」と自己同定している割合が高く、近親者や友人の半数以上にカミングアウトを行っている割合が高かった。

カスケードでCHWが携わる活動の特徴は、高不平等国は一次予防の活動に携わる割合が高かった。特に情報提供活動に従事している割合が高く、VPDとPrEP、Chemsexなどが主要な内容だった。また高不平等国は相談・支援活動に携わる割合も、低不平等国に比べて高かった。その他の活動では有意差は見られなかった。

また群別比較とは別に、著者らは分野横断(Cross-cutting)活動の重要性についても指摘する。分野横断活動はカスケードには載らないものだが、調査回答者の半数以上の人携わるものだった。ここでいう分野横断活動とは介入・アウトリーチ・支援活動の方法の開発、団体の活動のモニタリング・評価・報告、アドボカシー・ネットワーキング、研究やコミュニティのニーズ評価、マーケティング・広告・メディア活動などを指している。こうしたCHWの活動は公衆衛生やエイズ対策に直接影響を与えるものではないため、一般的にあまり重要視されることがない。しかし活動を持続可能なものにする、コミュニティのニーズを明らかにし、MSMが性の健康サービスに関連して直面する構造的な障壁が何であるのかを明らかにする点で、非常に重要である。またこうした分野横断活動には研究者がコミットすることも肝要であり、コミュニティの感染状況やそのことに影響を受けている層を理解すること、コミュニティがもつ新たなニーズに対応し変化を訴えるための有効なデータをまとめるためにも重要とする。

以上のことから、CHWはカスケードのすべての部分に従事しており、低不平等国と高不平等国の活動には多くの部分が共通するものの、それぞれに特徴があることが明らかになった。それぞれの国の社会文化的な環境に影響を受けるコミュニティにおいて、CHWが多様なニーズに応じたサービスを行っていることの反映だと考えられる。ECHOES調査では、CHWは独自のコンピテンシー基準をもつ、ヨーロッパ諸国のエイズ対策にとって本格的で一貫性のある労働力として認識されるべきである、と結論づける。

## 考 察

ECHOES調査では、MSMへの性の健康の支援を行ってきたヨーロッパのCHWの背景やその活動の多様性、そしてカスケードで示されるサービスの連続体のすべての段階

に貢献すること、また拠点とする国のLGBTの不平等スコアなど社会文化的な環境に影響を受けたMSMのコミュニティがもつニーズに即応する能力が明らかとなった。

著者らはさらに、CHWはこれまでも現在もエイズ対策等に貢献をしてきているが、この「労働力 workforce」のもつ本来の可能性について、いまだに過小評価されていると指摘している。ここであえて労働力という言葉を用いるのは、CHWの活動の重要性が労働としてエイズ対策の中に位置づけられること、またCHWの労働者としての権利や尊厳が守られることの重要性を含蓄する。過小評価の背景にはCHWの定義やその役割が当のCHWにとっても明確になっていない部分があること、また変化する状況に応じたトレーニングの機会が十分でなかったり、エイズ対策の中でCHWについて正式な位置づけが明確にされていないことがある。そのためCHWはトレーニング体系を構築し、独自のコンピテンシーの基準をもつ自立した一貫性のある労働力として認められる必要があり、国レベルでの対策に正式に統合しCHWの活動を支援維持する政治的な変化が必要であるとまとめている。

ECHOES調査の限界についても触れておきたい。1つは本調査の外的妥当性の問題である。まず実際のヨーロッパでMSMのエイズ対策に関わる母集団に対して、十分なサンプルサイズとなる回答者を集められているか不明であり、またドイツやスペインが回答者の居住地として突出しているなど、各国の規模に合わせてサンプル数を決めているわけではない点がある。2つ目に、リクルート対象から医療機関で働くCHWを除外している点も限界としてあげている。3点目に本研究ではCHWについて、MSMを対象とした性の健康支援に従事するものに限定しているが、その他のキーポピュレーションの対策に従事するCHWも多くいて、今後の応用可能性も考えられる。

さて本稿の最後に、ECHOES調査を踏まえ、今後の日本のCHWに関する研究や応用的な取り組みの可能性について検討したい。

日本のCBOの団体数について、ウェブサイトHIVマップの「NGO・NPO」コーナーでは37団体、ウェブサイトapi-netの「NGO活動のご紹介」では45団体が紹介されている。これらのサイトには掲載されていない団体や隣接分野の活動を行う団体も含めると、日本でもCHWとしてエイズ対策に携わる人たちが全国でかなりの人数が活動に取り組んでいるだろう。こうした日本のCHWはどのような背景をもつ人が何の活動に取り組んでいるのか、また活動の維持・拡大に何が障壁となっているのか、そしてエイズ対策への貢献への評価が必要と考える。さらにこうした評価に基づく、CHWのトレーニングも重要だ。

「後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針

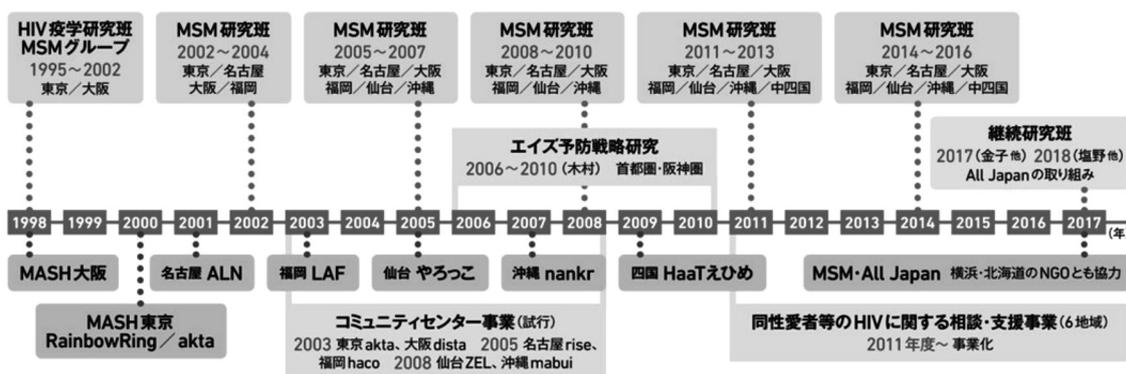


図 4 日本における、CBO との協働に基づく対策・研究の推移

(以下、エイズ予防指針)」では、施策の実施において特別な配慮が求められる個別施策層として、MSM、性風俗産業の従事者、薬物乱用・依存者があげられている。また、エイズ対策には国、地方公共団体、医療関係者、研究班・研究機関、患者団体を含む非営利組織または非政府組織が連携して取り組む必要があることが示されている。今後、SDGs の目標 17 でいわれる「マルチステークホルダー・プロセス」など、協働に基づくエイズ対策をさらに進めるためにも、CBO の役割が位置づけられる必要がある。

また日本の MSM 対策では現在、全国にコミュニティセンターを設置する事業が展開され、エイズ予防財団と連携しながら各地の CBO が活動している (図 4)<sup>11)</sup>。コミュニティセンターをもたない地域の CBO とも研究班は連携をし、MSM 集団の性・検査・予防行動の動向を把握し介入の企画・実施、そして活動の評価が行われてきた。今後、ECHOES 調査等の取り組みを参照し、コミュニティのニーズや課題に対応し、CHW のエイズ対策にとって有効な活動が持続可能なものとなるため、CHW を対象とした調査およびトレーニングが必要と考える。

## 結 語

本稿では 2017 年からヨーロッパで行われている、MSM への性の健康支援を行ってきた CHW を対象とした大規模調査 ECHOES の紹介を行った。CHW がエイズ対策の中で果たしている役割を検討し、特に維持カスケードのすべてのステップに携わっていること、コミュニティのニーズに即応している様子を明らかにした。また CHW の定義と評価を行い、状況にあわせたトレーニング、さらに CHW が国のエイズ対策にとって重要な労働力であることを認める必要があることを主張した。日本でもエイズ対策における CHW の役割や評価、位置づけの検討が行われる必要があり、ECHOES 調査は重要な先行研究の 1 つとなりうる。

利益相反：本研究において利益相反に相当する事項はない。

## 文 献

- 1) Saily D, Peter T, Fogarty C, Karatzas N, Belinsky N, Pai NP : Which community-based HIV initiatives are effective in achieving UNAIDS 90-90-90 targets ? A systematic review and meta-analysis of evidence (2007-2018). PloS One 14 : e0219826, 2019.
- 2) Perry HB, Zulliger R, Rogers MM : Community health workers in low-, middle-, and high-income countries : an overview of their history, recent evolution, and current effectiveness. Ann Rev Publ Health 35 : 399-421, 2014.
- 3) Olaniran A, Smith H, Unkels R, Bar-Zeev S, Van den Broek N : Who is a community health worker ?—a systematic review of definitions. Global Health Action 10 : 1272223, 2017.
- 4) Samantha S, Allen CG, Sutkowi K, Wennerstrom A : Community health workers in the United States : challenges in identifying, surveying, and supporting the workforce. Am J Publ Health 107 : 1964-1969, 2017.
- 5) Sherriff N, McGlynn N, Llewellyn C : D6. 2 : a final proposal for a European Community Health Worker Survey (ECHOES). 2017. <https://research.brighton.ac.uk/en/publications/d62-a-final-proposal-for-a-european-community-health-worker-surve>
- 6) Sherriff N, Huber J, McGlynn N, Llewellyn C, Pollard A, Lorente N, Folch C, Cawley C, Panochenko O, Krone M, Duterte M, Casabona J : Nonclinical sexual health support for HIV, viral hepatitis, and other sexually transmitted infections in gay, bisexual, and other men who have sex with Men : Protocol for a European Community Health Worker Online Survey (ECHOES). JMIR Res Protocols 9 : e15012, 2020.

- 7) European Commission Consumers, Health, Agriculture and Food Executive Agency : European Community Health Worker Online Survey (ECHOES). 2019. <https://research.brighton.ac.uk/en/publications/european-community-health-worker-online-survey-echoes-final-repor>
- 8) Lorente N, Sherriff N, Panochenko O, Marcus U, Dutarte M, Kuske M, Aussó S, Huber J, Krone M, Schink SB, Cawley C, Casabona J, Folch C : The role of community health workers within the continuum of services for HIV, viral hepatitis, and other STIs amongst men who have sex with men in Europe. *J Commun Health* 46 : 545-556, 2021.
- 9) World Health Organization : Global health sector strategy on sexually transmitted infections 2016-2021 : toward ending STIs. 2016. <https://apps.who.int/iris/bitstream/handle/10665/246296/?sequence=1>
- 10) [https://rainbow-europe.org/about?utm\\_source=pocket\\_mylist](https://rainbow-europe.org/about?utm_source=pocket_mylist)
- 11) <https://www.janppplus.jp/topic/569?utm>